
しあわせ温泉

N澤巧T郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しあわせ温泉

【コード】

N3250A

【作者名】

N澤巧T郎

【あらすじ】

お父さんが会社から帰ってきました。

いつもと同じ帰り道。影がやたらと大きくなってる。焼いも屋さんのいい匂い。思わず立ち寄り「4本ください」。おっちゃん笑って「サービスしとくよ」。元気に笑って御礼の言葉。

「ありがとうございます」

あつたかおイモを両手に抱え、ちよつと早足帰り道。やっと見えた我が家の屋根。ローンで買ったぞ一軒家。まだまだ見えぬ返済日。それまで働き続けます。私の愛する家族のために。気づけば家から元気な声。今日も元気がうれしいぞ。

ピンポーン

「ちよつと待っていていま開けるから」。待っていますと心で答え。ガチャつとドアから子供達。「おかえりなさい!!」と声がハモれば、自然と笑顔で答えます。

「ただいま。今日も良い子にしていたかい?」

「うん!!」と笑顔で答える二人。ならばあげようホカホカおイモ。二人の瞳がキラキラ光り、まわり尽きます私の周り。「ちよつと待て待て」言いながら、やっぱりどこか嬉しそう。妻が笑って待っている。さあさあ戻ろう家の中。とつてもあつたか家の中。

「おイモ〜おイモ〜」

おイモを頭上に掲げながら、走っていきますリビングへ。私は着替

えに寝室へ。「お疲れ様」と言いながら、妻が背広をハンガーへ。照れくさくて言えないけれど、いつも思う感謝の気持ち。今日も口に出れない代わりに、出るのはこんな言葉だけ。

「お伊モを1つおまけにくれたんだ」

コタツの上にあるみかん。その隣にあるホカホカお伊モ。4人でコタツを囲んだら。「いただきまーす！」元気な声で。黄金色に輝き放つお伊モに一口かぶりつく。「はふはふっ」「はふはふっ」言いながら。ゴクンツと飲みこみ言いました。

「甘くてとってもおいしいね」

あつという間になくなるお伊モ。コタツの上にあるみかん。その隣にあるおまけ伊モ。すると子供が言いました。「4人で分けて食べようよ」。黙ってお伊モに手を掛けて、二つに折って二人に笑って言いました。

「二人で分けて食べなさい」

おいしいお伊モを食べたなら、お次はお風呂に入ろうか。「僕も入る」「私も入る」それじゃあみんな入ろうか。我が家自慢のしあわせ温泉。笑いと幸せ湧き続ける。もちろん源泉たれ流し。ちゃんと肩まで浸かったならば、ゆっくり30数えましょう。

「24、27、28、33、34、40、30!」

寝息をたてて眠ってる。まさしく天から舞い降りて、幸福もたらず天使の寝顔。疲れも辛さも吹き飛んで、やる気と情熱ふつふつと。明日を生き抜く力をくれた。

年末くらいはゆっくり休んで、温泉にでも連れて行こう。家族と一緒に行くのなら、どこへ行ってもしあわせ温泉。

笑いあふれるしあわせ温泉。

幸せあふれるしあわせ温泉。

(後書き)

リズムに乗って、声に出してお読みください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3250a/>

しあわせ温泉

2010年12月29日20時53分発行